

実践2021 正誤表

巻数	頁	項目	訂正前	訂正後	訂正日
0 必修	396	a肢 解説	オーバージェット、オーバーバイトともマイナスであり、反対咬合を呈している。	オーバージェットはマイナス、オーバーバイトはプラスであり、反対咬合を呈している。	10月12日
1.基礎 上	3	ポイント&アドバイス 最終行	～血中Ca <sup>2+</sup> 濃度上昇に關与する。	～血中Ca <sup>2+</sup> 濃度低下に關与する。	7月22日
2.基礎 下	348	ポイント&アドバイス 表の耐変色性	加熱重合型:小 常温重合型:大	加熱重合型:大 常温重合型:小	10月12日
3.衛生	78	ポイント&アドバイス	RCI (Root Caries Index) $RCI = \frac{(R-D)-(R-F)}{(R-D)-(R-F)-(R-N)} \times 100$	RCI (Root Caries Index) $RCI = \frac{(R-D)+(R-F)}{(R-D)+(R-F)+(R-N)} \times 100$	6月5日
	212	99A-105 問題文、解説、解答	近年の我が国における食中毒の発生状況で正しいのはどれか。2つ選べ。 ○b: 食中毒での死者は抵抗力の弱い高齢者や小児に多い。近年では平成28年に老人ホームで提供された未加熱の野菜調理品による食中毒が発生し、10人が死亡した。 解答: b, d	近年の我が国における食中毒の発生状況で正しいのはどれか。1つ選べ。 ×b: 食中毒での死者は抵抗力の弱い高齢者や小児に多い。近年では平成28年に老人ホームで提供された未加熱の野菜調理品による食中毒が発生し、10人が死亡した。 解答: d	10月22日
7.全部床義歯学	51	112B-54 問題区分	臨床実地問題: 印象採得	印象採得	11月10日
8.部分床義歯学	198	アクセス			10月12日
		c肢 解説	○c, d: 本症例は4-1と4-2が舌側傾斜しており、残存歯の咬頭嵌合は不適切と考えられ、咬合高径も著しく低下している。咬合挙上を行えばデンチャースペースを確保でき、義歯の破折強度も確保される。咬合採得は全部床義歯に準じた下顎安静位などを確認しつつ、右側を中心に他の残存歯の咬合や被蓋関係も参考としながら、適切な咬合平面の設定と咬合位の再構築を行う。	○c, d: 本症例は54-1と54-2が残存しているものの有効な咬頭嵌合が得られておらず、左側も咬合支持を喪失し、さらに咬合高径は著しく低下している。上顎前歯の残根に根面板を装着したうえで十分なデンチャースペースが確保できるように、咬合挙上する必要がある。咬合採得は全部床義歯に準じて行い、下顎安静位などを確認しながら行う。顎位の修正により右側の残存歯による咬合位の再構築を模索し、適切な咬合平面を再設定する。	
		ポイント&アドバイス	咬合支持を喪失した症例やずれ違い咬合の症例では、残存歯どうしの咬合接触をよりどころにして咬合採得することはできない。本症例は4-1と4-2、4-3と4-4が対合歯となり得るものの、有効な咬頭嵌合は得られていない。このため、適切な咬合高径を設定するためには全部床義歯に準じた方法を取り入れる必要がある。残存歯の歯冠高径や近接歯の被蓋関係、顔面計測法、下顎安静位利用法や発音利用法などにより、適切な咬合平面、咬合高径を設定する。 上記の方法でまずは暫間義歯を製作し、咬合挙上と4-1と4-2の適正な咬合高径での歯冠修復を行ったのち、最終義歯を製作する。より上質な審美性や強度など、患者からのニーズを最初から満たすことが難しい症例では、暫間義歯を経て最終補綴でそれらを満たしていく方針を提示することも大切である。	咬合支持を喪失した症例やずれ違い咬合の症例では、残存歯どうしの咬合接触をよりどころにして咬合採得することはできない。これにより下顎の左側偏位も疑われるが、1-1と残根状態の1-2の位置関係を考えると偏位の有無や移動量は与えられた情報からは評価が困難である。また、4-4も舌側傾斜しており、この歯軸では支台歯として不適当の状態である。これらのことを総合して、適切な咬合高径を設定するためには残存歯の歯冠高径や被蓋関係を把握したうえで、無歯顎症例と同様に、顔面計測法、下顎安静位利用法や発音利用法などを取り入れて咬合採得を行う。 このようにしてまずは暫間義歯を製作して咬合挙上と最低限の咀嚼機能の回復を行い、適切な咬合高径を再設定する。その状態で54-1と54-2に必要があれば補綴前処置として歯冠修復・歯冠補綴、MTMも応用して歯軸を修正したのちに、最終義歯を製作する。患者がより上質な審美性や強度を求めていたとしても、暫間義歯・治療用義歯を経て種々の問題を解決しておくことが必要不可欠であり、暫間義歯や治療用義歯はそのために経る必要があること、そのうえで最終義歯の製作に着手するということを説明することが大切である。	
11.歯科矯正学	210	解説 d	エはYoung(ヤング)のプライヤーである。ワイヤーの屈曲に用いる。	エはループフォーミングプライヤーである。アーチワイヤーへのループの付与に用いる。	4月6日
13.口腔外科学 中	13	問題文 4行目	別に示すH-E染色病理組織像(別冊No.1B p1)の～	別に示すH-E染色病理組織像(別冊No.3B p3)の～	8月26日
	128	問題文 3行目	～と生検時の病理組織像(別冊No.69B p54)～	～と生検時の病理組織像(別冊No.63B p48)～	6月26日
14.口腔外科学 下・歯科麻酔学	16	問題文 表中2行目	ヘモグロビン: 8.5g/μL	ヘモグロビン: 8.5g/dL ※国家試験ではヘモグロビン: 8.5g/μLとなっていたが、ヘモグロビン: 8.5g/dLとして考える。	7月7日